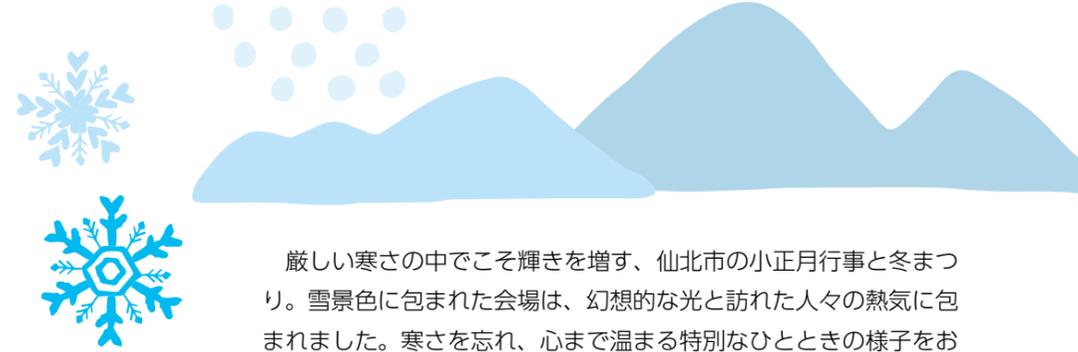




#仙北市の冬まつり 2026



厳しい寒さの中でこそ輝きを増す、仙北市の小正月行事と冬まつり。雪景色に包まれた会場は、幻想的な光と訪れた人々の熱気に包まれました。寒さを忘れ、心まで温まる特別なひとときの様子をお届けします。

2月7日、角館町白石地区で、冬の夜を幻想的に彩る「白石城址燈火祭」が開催されました。

このイベントは、地域の活性化に取り組む住民グループ「白石村おこしプロジェクト」が主催し、中世白石城址「館山」にスポットを当てた冬の恒例行事です。今年で23回目を迎え、地域に深く根付いた祭りとして多くの人々に親しまれています。

参道には、約500個のかがり火と灯籠が1つひとつ丁寧に灯されると、闇夜に伝説の生き物「麒麟」の姿が勇壮に浮かび上がり、訪れた来場者からは感嘆の声が上がりました。

会場内では、冷え込む夜に嬉しい熱々の豚汁が振る舞われ、身も心も温まるひとときに笑顔が溢れました。また、炎の迫力を間近で体感できる「火振りかまくら」体験も行われ、参加者は雪国の冬ならではの伝統行事を楽しみました。

フィナーレには冬の夜空に大輪の花火が打ち上がり、白石の地は温かい拍手と歓声に包まれました。



2月10日、西木地区の伝統行事「上松木内の紙風船上げ」が行われました。

会場には、武者絵や美人画が描かれた巨大な紙風船がならび、点火を待つその姿は圧巻。午後6時の一斉打ち上げを皮切りに、パナーの熱気を含んだ紙風船が次々と夜空へ放たれました。

昨年8月、上松木内・松木内地区を襲った豪雨災害。今年の紙風船には、五穀豊穡や無病息災に加え、災害からの復興や地域の安全への切実な願いが込められました。

また、午後7時には、大雨被害地域で活動いただいたボランティアの皆さまが、復興への願いを直接書き込んだ特別な紙風船が夜空を彩りました。

困難を乗り越え、雪深い冬の夜空を力強く舞い上がるオレンジ色の灯火。その光景は、地域の人びとの絆と不屈の想いを映し出しているようで、復興の願いを胸に結束した地域の情熱が、次回開催への原動力となっており、訪れた観光客の胸に熱い感動を呼び起こしました。



2月14日、角館町の小正月行事「角館の火振りかまくら」が町内各所で行われました。

この火振りかまくらは、旧暦の小正月に行われる伝統行事の1つで、神聖な火によって田んぼの厄を祓い、家族の無病息災や家内安全など1年の無事を願うもので、江戸時代から受け継がれてきたといわれています。

見どころの「火振り」では、参加者が炭俵に1メートルほどの縄をつけ、縄の先端を持ち、自身の体の周囲で豪快に振り回すと、暗闇に鮮やかな光の軌跡が描かれました。

会場では、火の輪が大きく広がるたび、感嘆の声が上がり、雪明かりと炎が織りなす光の競演に見入る人の姿が多く見られました。



優勝したTBCのチームメンバー。

スポーツでつながる
第13回仙北市バスケットボール大会
 1月25日、角館中学校体育館で第13回仙北市バスケットボール大会（主催：仙北市バスケットボール協会）が開催されました。
 市内から6チームが参加し、会場には仲間を応援する声とボールの弾む音が響き、寒さを忘れる熱戦が繰り広げられました。好プレーが出るたびに大きな拍手が起こり、世代やチームの垣根を越えて、バスケットボールの楽しさを分かち合っただけならず、決勝では、「TBC」がチームワークの良さを発揮し、見事優勝しました。試合後には互いの健闘をたたえ合う姿も見られ、スポーツを通じた交流の温かさが感じられました。
 市民の皆さんが気軽に集い、体を動かし、笑顔でつながる機会として、今後もこうしたスポーツイベントが地域の元気につながっていくことが期待される大会となりました。

善意ありがとうございます
**角館ロータリークラブから
 角館小学校に寄付金をいただきました**



宮下会長（写真左）から福田校長へ目録が手渡されました。

1月26日、国際ロータリークラブ2540地区および角館ロータリークラブ（宮下進司会長）から、角館小学校通級教室に検査機器の購入に役立ててほしいと寄付金をいただきました。当日は、同団体会長、幹事、前年度会長が来校し、贈呈式が行われました。
 同団体からは約50年にわたり、同通級教室へ教材購入費などの補助金を毎年いただいています。今回は、国際ロータリークラブの補助金と同クラブの補助金をあわせ、検査機器2台の購入費をご支援いただきました。
 福田校長は、「購入した機器は大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。

**農事組合法人生保内南から
 教育活動支援の寄付をいただきました**



左から荒木田俊太郎さん、荒木田理事、鈴木生保内中学校長。

2月4日、農事組合法人生保内南から、生保内小学校と生保内中学校へ教育活動に役立ててほしいと寄付をいただきました。生保内小学校では図書購入費などに、生保内中学校ではふるさと教育（生保内節）の活動費に充てられます。
 両校を訪れた荒木田浩生理事と荒木田俊太郎さんは「これからも地域のためにできることを続けたい」と話し、目録を竹村校長、鈴木校長へ手渡しました。鈴木校長は「地域の支えに気づき、将来は恩返しできる人に育ってほしい」と述べ、竹村校長は「子どもたちが本に触れる機会をいただき、心より感謝している」と話しました。



荒木田理事から竹村生保内小学校長へ目録が手渡されました。

**株式会社吉祥吉ホールディングスの赤木会長から
 ふるさと納税の寄付をいただきました**



田口市長から赤木会長へ感謝状が手渡されました。

仙北市の誘致企業に認定されている株式会社吉祥吉ホールディングスで、「桜こまち 武家屋敷店」を運営されている赤木清美会長から、仙北市へふるさと納税の寄付をいただきました。
 2月9日、市役所田沢湖庁舎で感謝状を贈呈しました。いただいた寄付は、ふるさととの自然と歴史・文化を守る事業として、桜保護管理費に活用します。

令和7年度仙北地域振興局

**「元気なふるさと秋田づくり
 顕彰」受賞**

秋田県では、地域住民による自主的・主体的な地域活動に積極的に取り組む団体などを表彰する「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業を毎年実施しています。2月2日、仙北地域振興局で開催された表彰式で、NPO法人ガンバつたらよ田沢が受賞しました。
 NPO法人ガンバつたらよ田沢は、令和5年に路線バスの廃止を受けて設立した団体で、住民バス「たざわおたのしみバス」を市からの委託を受け運行しています。同バスは、地域住民の重要な移動手段になっているほか、スクールバスとしての利用や多世代の交流、地域全体での見守り機能を担う場としても活用されています。このような活動が自主的・主体的な地域活動として評価され、受賞につながりました。
 表彰式では、NPO法人ガンバつたらよ田沢の伊藤聡理事長から、「地域住民が病院、買い物、金融機関などに向かう足の確保だけでなく、見守りや生活に必要な組織として頑張っている」と挨拶しました。

**Inaka Travel Akita
 「サステナブルな旅アワード」
 地域未来賞を受賞**



角館半日ツアー「職人と文化と食を巡る旅」を企画するInaka Travel Akita（株式会社遊名人代表取締役 東風平時人さん）が、観光庁の「サステナブルな旅アワード」の地域未来賞を受賞しました。
 ツアーでは武家屋敷に加え、商人町「外町」の歴史に光を当て、味噌醤油蔵の見学や榊細工の体験などを通じて、地域の担い手と直接交流します。
 秋田に移住した20代のガイドが「外の目」で魅力を掘り起こし、角館の生活や物語に焦点を当てた独自性が高く評価されました。今後のさらなる展開が期待されます。

第29回おやま囃子芸能発表会



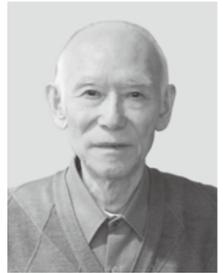
2月11日、角館のお祭り保存会主催の第29回おやま囃子芸能発表会が仙北市角館交流センターで開催されました。

今回は、角館おやまばやし櫻義会、穂月会、飾山囃子葵会、秋月会、愁明会、照桜会、千葉キヨ社中、お山ばやし扇栄会、神代芸能保存会藤原組、夢燈会、飾山囃子弘道流奏秋会、おやまばやし清友会の順に計12団体が出演し、日ごろの練習成果を披露しました。

令和7年度仙北市芸術文化章授章式

1月31日、仙北市芸術文化協会（佐藤心二会長）が主催する「第20回仙北市芸術文化章授章式」が温泉ゆば「紫苑の間」で開催され、次の方々に芸術文化章が贈られました（※年齢は授章決定時を掲載）。

- 個人・地域・俳句
- 個人・地域・謡曲
- 個人・地域・郷土史
- 個人・地域・書道



柏谷東遊氏

（82歳・角館町雲然庵屋敷）

角館町芸術文化協会副会長、仙北市芸術文化協会理事などを歴任し、20年にわたり仙北市芸術文化振興大会の実行委員・委員長として運営に従事し、同協会の運営に多大な貢献をした。また、俳句に長年取り組み「きさらぎ俳句会」を主宰。句集と随想を併載した「このひらの風花」を出版し、令和7年には編集者として「きさらぎ俳句会合同句集」を発行。



畠山公作氏

（79歳・角館町上新町）

平成24年に仙北市芸術文化協会事務局長に就任後、令和4年に仙北市芸術文化協会副会長および角館芸術文化協会会長に就任し、令和6年より角館町芸術文化協会顧問に就任するなど、仙北市芸術文化協会の運営に多大な貢献をした。謡曲喜多流角館会に所属し、唐松城能楽堂での「まほろば唐松定期公演」に秋田県代表として出演する。また、令和元年から「喜多流謡教士」免状を取得し、後輩の指導にあたるなど、謡曲分野の人材育成にも貢献している。



千葉惣永氏

（79歳・田沢湖生保内字阿気）

農業と民宿を営む傍ら、植物の植生研究と地域の歴史や民族文化、食文化に強い関心を持ち、多岐にわたり地域の文化活動を展開している。また、田沢湖町史編纂委員として、資料編第1集から第9集までの編纂に携わり、新田沢湖町史の編纂にも貢献した。北浦史談会に所属し、副会長、監事などを歴任し、組織運営に貢献するとともに、会員の指導にもあたっており、郷土史に係る人材育成にも貢献している。



草薨徳子氏

（91歳・田沢湖生保内字武蔵野）

東京の書家・故浅沼一道の指導を受け、東京での勉強会に参加するとともに、田沢湖ふでの会に所属し、書道の研鑽に長年励んでいる。田沢湖地区では故浅沼一道理士を招き、ふでの会主催講習会を故元野英雄氏とともに指導的に毎年開催するなど、仙北市における書道研究の進展に大きく貢献した。また、昭和40年から45年間にわたり書道教室を開き多くの門下生を輩出し、ふでの会の作品展覧会を長年開催するなど、地域の書道教育に尽力している。

戦没者遺族相談員を紹介します

戦没者遺族相談員について、次のとおり決定されましたので紹介します（敬称略）。委託期間は令和7年10月1日から令和9年9月30日までとなっています。戦没者遺族についてお困りごとがありましたら、相談員へご相談ください。

戦没者遺族相談員

▼氏名 武藤啓司 ▼居住地 仙北市角館町七丁目（担当地区：仙北市） ▼電話 53・3777 ▼相談内容 戦没者遺族の各種年金・給付金などに関する相談・生活上の問題や利用可能な福祉制度などに関する相談



間もなく地域おこし協力隊 退任(涙) 溝口真矢

私の3年間の地域おこし協力隊の任期が、早いものでついに残すところあと1か月となりました。

私は幼い頃から引越越し族で、半生を世界のさまざまな場所生きてきたのですが、岩見谷慎太郎元協力隊員に誘われて初めて訪れた仙北市にただならぬポテンシャルを感じ、東京から移住してきました。

地域おこし協力隊に着任してから、まず私はかつてライブハウスだった場所で「生活拠点・人の交わる場」として場づくりに着手しました。住み慣れない地域でまず自分の安心の拠り所になる場所をつくるだけでなく、私が生活を通して幸せだと感じることをひとにも伝えられる場所をつくりたかった。そして、そこに国内外から100人以上が滞在し、創造に満ちた田沢湖での生活体験を共有することによって、一言では表せないこの地域の圧倒的な魅力が伝わっていききました。気づくとそこに共鳴する移住者が20人ほどに自然に増えていきました。中には米国や英国からの移住者もいます。そして、この地域の風土を尊重し、空き家を自分で手直ししながら楽しく生活基盤を



アーティストインレジデンスを通して移住してきたクリスとヴィクトリアを移住者の仲間と囲んで。

築いていく仲間の輪が広がっていき、過疎化と空き家問題の両方が少しずつ確実に解消されていく様子を3年間で目の当たりにすることができました。

仙北市の皆さんがよく口にしている「ここにはなんもね」は、「伸びしろに満ちた大きな余白」とも言えると思えます。こつこつと見いだした仙北市の希望の先を、私はこの先もずっと見たいです。だから、地域おこし協力隊退任後も仙北市で生き続け、さまざまな形で地域活動に関わっていききたい所存です。今までに味わったことのないこの感覚は、温かく支えてくださった仙北市の皆さん、市役所の皆さん、そして地域おこし協力隊というお仕事のおかげでした。これからも益々地域に密着し、仙北市に恩返しさせていただきます。今後ともよろしくお願ひします！

第14回仙北市総合美術展

仙北市民の芸術創作活動を広く発表するため、第14回仙北市総合美術展が2月1日から15日の間、角館町平福記念美術館を会場に開催され、絵画や工芸・書・写真など幅広いジャンルから160点を超える力作が出品されました。

来賓や関係者が出席したオープニングセレモニーでは「市民の手により、市民の出品を主とする美術展をこの美術館で開催できることは誇らしい。自分たちの手で開催にこぎつけたことが嬉しい」と実行委員長からあいさつがありました。日ごろから創作活動続ける多くの市民や地元高校生の瑞々しい感性の作品が調和した美術展となり、来場者は思い思いの視点で作品を鑑賞する姿が見られました。また、出品者からは「美術展の開催は制作の励みになった」「ほかの方の作品から刺激を受けた」といった声が寄せられ、今後の創作活動への意欲につながる機会となりました。



多彩な作品の前に、来館者が足を止めて鑑賞。